会　議　録

１　会議名

令和元年度第５回直江津区地域協議会

２　議題（公開・非公開の別）

【協議事項】

地域活動支援事業（追加募集）について（公開）

【自主的審議事項】

直江津まちづくり構想について（公開）

３　開催日時

令和元年７月１６日（火）午後６時００分から午後７時４０分まで

４　開催場所

上越市レインボーセンター　多目的ホール

５　傍聴人の数

１人

６　非公開の理由

―

７　出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委　員：　青山恭造（会長）、竹内明美（副会長）、増田和昭（副会長）、青山義一、泉　秀夫、磯田一裕、今川芳夫、河野健一、小林克美、坂井芳美、田中美佳、田村雅春、中澤武志、町屋隆之、丸山朝安、水澤敏夫（欠席２名）

・事務局：　北部まちづくりセンター：滝澤センター長、小池係長、霜越臨時職員

８　発言の内容

【滝澤センター長】

・会議の開会を宣言

・上越市地域自治区の設置に関する条例第８条第２項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【青山恭造会長】

・挨拶

・会議録の確認：青山義一委員、泉委員に依頼

議題【協議事項】地域活動支援事業（追加募集）について、事務局へ説明を求める。

【小池係長】

・資料№.１「令和元年度地域活動支援事業直江津区（追加募集）審査スケジュール（案）」に基づき説明

【青山恭造会長】

・説明に対し意見等を求めるがなし

・地域活動支援事業の審査スケジュールは参考資料のとおり進めていくことで委員から同意を得る

次に【自主的審議事項】「直江津まちづくり構想について」事務局へ説明を求める。

【小池係長】

今年度第１回地域協議会において、今後も継続してテーマを絞らずに地域の課題について意見交換していくこととした。地域協議会と住民の皆さん、地域活動支援事業の提案団体との皆さんとも意見交換をやりたいという声もあった。

本日は、資料№.２「地域の課題の抽出について」にまとめてある今までの意見を踏まえながら、他にも地域で課題となっていることはないか等、自由に発言していただき、委員の皆さんで地域の課題について共通認識を深めていただきたい。

その中で、一つのテーマについて深く審議していきたいものが出てくれば、今後の審議の進め方についても話し合っていただきたい。

【青山恭造会長】

地域の課題等について意見を求める。

【田村委員】

五智地区と直江津地区の町内会長の意見交換の中で、私たちが解決しなければならない問題は暮らしと空き家問題だと思った。ただ、空き家対策は、法律的な問題もかなりあるので、私達がどこまで介入できるのか悩んでいるところである。

また、環境、観光はかなり行政の手助けが必要だと思う。

【青山恭造会長】

空き家の問題や犬や猫の動物多頭飼育の問題は昔からある。これは市で条例を作らないと難しいと思う。上越市には空き家条例や多頭飼育条例等はないのか。新潟市ではすでに多頭飼育条例ができている。

【増田副会長】

上越市に条例はない。住民からの様々な苦情は町内会長に言ってくることが多い。動物に関して、近隣の人も困っているが、直接注意するとトラブルになる。ところが町内会長が申し入れをすると意外とトラブルになりにくい。空き地の管理にしても、町内会長名で文書を出すと法的には効力はないが、それなりの効力はある。これも１つの解決方法なのではないか。空き家については町内会長の所に「危険な空き家はないか」という調査依頼が来ているが、それ以外の空き家は、それぞれの町内会任せになっている。行政としては空き家の利活用をどうするか方針は出ていない。民間レベルでは、少しずつではあるが、空き家の場所や現況について把握し始めている。私としては、これを組織的にできないかと考えており、空き家について誰に連絡を取ったら良いかを把握できればと思っている。町内によっては情報をしっかり認識している所もある。

また、空き家になってから１年以上放置すると資産価値が落ちてくる。３年以上経つと使い道がなく壊すしかないという実態があるので、この実態をどのように市民の皆さんに知ってもらうかということも課題だと思う。

【泉委員】

空き家の問題は、非常に難しい。建物がある状態と更地の状態では税制上の問題も出てくる。

【田村委員】

条例は議員発議で出来るものなのか。

【小林委員】

過去に議員発議で出来たものもあるが、空き家に関しては、なかなか難しいと思う。

【田村委員】

旧市内のように隣家が密接している場所は困るのではないか。

【増田副会長】

全市で一斉にやるのは難しいと思うが、最初は市で、いくつかの方法を提案してもらい、持ち主からやり方を選択してもらうような事から始めたらどうか。

【泉委員】

町場の土地は小さく、歯が抜けるようにして人が出ていく。そこで、隣近所で２軒分の土地を買って若い人が住んでいる例もある。若者に話を聞くと、「この土地に居たい気持ちはある。しかし、なかなか望むような土地がない」ということもある。空き家問題

は、やり方次第で町づくりの良いチャンスにもなると思う。

【磯田委員】

「直江津まちづくり構想」は３年間ずっと協議してきている。現状は議論の方向性すら定まらず、いつも同じ議論をしている。テーマを絞らずに広く地域の話をしようと言っているが、「暮らし」や「空き家」というような１つのテーマに絞らないと議論の深堀ができない。では、地域協議会だけの議論で終わらせて良いのか。それとも他からの話も入れていくのか。結局このままずっと断片的な話で終わってしまうと思う。せっかく議論を進めてきたが、なかなか先に進んでいかないので何か方針を決めて、それに向かって動いていくロードマップを定めたほうが良いのではないか。

【青山恭造会長】

絞られてはいないが、方向性について資料№.２のとおりに決まっているのではないか。

【磯田委員】

資料№.２の文言は、町内会長達との意見交換から出てきた課題だけである。

【泉委員】

以前にも方向性を決めたいという議論をしたかと思うが、まずは議論を始めるために再度、意見交換会を行い、それから方向性を出すという話があったかと思う。

今、磯田委員が言ったように漠然とした中で議論を行っているが、結論が出るような話をしていきたい。

【丸山委員】

各町内に何軒かある空き家について、町内会長から困っている家をあげてもらい、それを市役所が弁護士や司法書士に頼んで解決の方法を導き出してもらうことはできないか。

【青山義一委員】

空き家にも２種類ある。危険な空き家と単純に空いている家である。単純に空いている家は、ほかの人が借りて住んでいる場合もある。このようにすぐに借り手があれば良いが、問題なのは崩壊の危険や不法侵入して悪戯されることである。

現在、町内会長に対し、市から危険空き家調査について依頼が来ているので調べたいと思う。同じ空き家でも危険を伴うものとそうでないものと２つに分けて、住める家であれば、市でも民間でも良いが、新しく借家を希望される人に斡旋をしても良いのではないか。

【丸山委員】

今、私が言ったように１軒の空き家を、どこがいけなくて空き家になっているかを決めてもらえば、地権者を説得して貸家にして人が住めるようになるのではないか。

【泉委員】

町内会長と意見交換会をし、各町内の課題については教えていただいた。今後、我々が行うべきことは出していただいた課題を絞って方向性を考えていかないといけないのではないか。具体的なことについては早すぎる気がしている。

【竹内副会長】

私も具体的なことはすごく大事だと思っている。各町内によって悩みは違い、課題はずっと出てくると思う。今までいろいろな意見が出てきたが、地域協議会として何ができるのか。進め方等を協議して方向性を出していかないと、課題がいつまで経っても解決せず、新たな課題がまた出てくるということになる。

【田村委員】

方向性を出すという意見には私も賛同する。地域協議会で何ができるかを見つけることは大事だと思う。ただ、課題は沢山ある。

先ほどから空き家の話が出ているが、私は雁木の問題も大事だと思っている。雁木の通路を平らにしていただきたい。

【小林委員】

地域協議会として、何をどう取り組んでいくか。今の雁木の話だが、西本町は毎年空き家がどんどん増えている。そのため、地権者に地域協議会が関わっていくことは無理なことだと思う。町がどうやったら賑わうかだが、例えば、大掛かりな話になるが、交通公園のＤ５１型式機関車を移動させるためには、解体すると非常にお金が掛かるとのこと。日本海ひすいラインの線路に付けて引いていけば、直江津駅の１番線に持っていき展示することができる、という話をＪＲ東日本鉄道ＯＢ会の方から聞いた事がある。市と、えちごトキめき鉄道株式会社と絡めば実現できるのではないか。お願いできるものがあれば、直江津区地域協議会として取り組んでいくというものを持たないと前に進まないと思う。

【泉委員】

今ほどの雁木の件だが、私は雁木をあまり構わないほうが良いと思っている。一方で、あの雁木が整備されることによって、高齢者の問題も若干は緩和されると思う。我々が

話をしていると、１００％を求めているような意見になっているが、空き家や雁木について言えば、高田も同じような条件だったと思うが整備を行っている。雁木の全てはできなくても、一部でもできれば、それをきっかけに前に進むかもしれない。小さなことをやりながら、空き家のことも若干解決するようなものが出てくるかもしれない。

【青山恭造会長】

ある町内で、雁木は自分の土地なので、駐車場にするために雁木を壊して駐車場にしている所がある。雁木整備するには、ある程度の団体で行わないと意味がない。真ん中でポツンと駐車場にされても困る。軒並み、皆さんが協力しないと行えない。

【泉委員】

だが、動かなければ、いつまで経っても進まない。雁木の通路も段差があるから不具合がでるのであって、スロープになっていれば良い。全部が平らでなくても良いと思う。

【青山恭造会長】

北側の地域は、雁木より家の中のほうが低い。そうなると、平らにした時にどこの地点に合わせるかが問題になると思う。

【泉委員】

それは、できる所からやれば良いと思う。始めれば、何かしら知恵も働いてくるのではないか。

【中澤委員】

私の町内では、ほとんど雁木がない。高田の商店街の雁木と直江津の雁木とでは条件が違うのではないか。先ほど、方向性という話があったので、「今日は、この話題で話し合う」というテーマを決めないと話がまとまらないのではないか。

【丸山委員】

１つの話題に対して審議し、何らかの結論がでたら、次に進むというやり方はどうか。

【青山恭造会長】

資料№.２の内容を上から絞って議論したらどうかという提案があったが、いかがか。

【田村委員】

基本的には、賛成である。ただ、関連性もあるので一概に言えないと思う。

【増田副会長】

皆さん、結論を出さないといけないと思って議論されているが、これだという結論が出るものはない。先日、町内会長の皆さんと意見交換した時に、町内会長の理解と我々

の理解に差があった。少なくとも、今後、町内会長や地域の人と話をする時に、地域協議会委員として、ある程度理解していないと困るので、前回から深度を深めて話し合いをしましょうと言っているので、その課題をどうするかといった時に地域の課題で一番大事なのは何かと考えた時に、暮らしと空き家が一番身近で切実な問題である。空き家にはどんな課題と問題があるか。また、その解決策を答えられるようなところまで理解を深めておかないといけないと思い、この方向で進めてきている。もう一つの問題は、高齢化の問題である。これはどこの町内会長も困っていることで、民生委員のなり手や役員のなり手、子供の見守り活動のなり手等がいないという問題について認識するところから始めていく。今後私達がやらなければならないことは、直江津区地域協議会が何かを提案するのは、残りの任期である１年間では難しい。むしろ地域の人たちに地域協議会はどういったものかを理解してもらうかという方向に進めていったほうが良いのではないか。町内会長と話をした時に、年に２回くらいは話がしたいとの意見があった。ほかに地域活動支援事業に応募している団体もある。団体の皆さんは、自分の団体はもちろん、地域のためにと思って提案しているので、そういう人と意見交換しながら認識を深めることが必要だと思う。

今後は話題が飛んで深まりが出ないので、的を絞って認識を深めたら良いと思う。

【泉委員】

町内会長と意見を共有するために意見交換を行うのであれば、資料№.２の課題を上から順番に話し合うのではなく、町内会で特に困っている内容から審議したほうが良いのではないか。

【青山恭造会長】

町内会長ともう一度、話し合いをしても良いということか。

【泉委員】

皆さんが町内会長の話を理解したと言うのであれば話は別だが、私は理解していない。

【磯田委員】

意見交換会を行えば町内会長が直面する問題は出てくるとは思う。だが、その課題についての解決策を共有するような意見交換はできないように思う。ある程度こちらで、解決策や意見を示して、どの政策が一番良いか等を示せるようにしてからでないと話し合いにはならないと思う。

【田村委員】

町内会長との意見交換会の最後で「地域協議会委員からも町内会長の皆さんと同じような意見がありました。さらに地域協議会としてどういうことが良いのかをまとめていきたい」という話をした記憶がある。意見を揉んで、ある程度、町内会と共有していければと思う。

【中澤委員】

資料№.２に記載されている文言は意見交換会で出てきた問題点であり、町内会長全員が意見を述べたわけではない。町内会毎に問題点が違ってくる。問題点を話してもらうことによって、他町内の問題を共有することができた。そこに立ち会うことのできた地域協議会委員も、そういった問題があるのかと共有できた。そこから先、進化しないといけない。それに対して、どういう対策ができるのか、これからどうすれば良いのか。やり方としては、課題を絞って話し合うので良いと思う。

【丸山委員】

町内会長に聞いた話だが、「各町内で問題をまとめると、それを地域協議会で協議し、解決してくれると認識している」とおっしゃっていた。全員が同じことを思っているとは言わないが、そういう感覚の人もいる。つまり地域協議会が市役所の一部のような発想をしている。

【青山恭造会長】

資料に記載されているのは、直江津地区と五智地区の町内会長の意見を羅列したものである。これを地域協議会で揉んで、意見を共有化して統一していければ良いと思う。

【町屋委員】

資料に記載されている文言は、あくまでも町内会長の意見であり、町内会長の意見を全て我々が共有する必要はないと思う。出していただいた意見の中でどれを取り上げるかを協議会で揉めば良いのではないか。まずは、精査することが大事である。

【田村委員】

なぜ先ほど方向性と話したかと言うと、意見交換会の際、五智の鏡池や海浜公園の時計の話が出ていた。そういった話は地域活動支援事業に提案していただければ、採決は別としても地域協議会委員で十分審議するので、出してほしいという話をした。

【青山恭造会長】

では、本日は「暮らし」について、皆さんと協議していきたいと思う。資料に記載されている主な意見の５項目について皆さんの意見を聴きたい。

【田村委員】

全てに関して答えを求めるわけではないが、資料に記載されている５項目について、法律に関係するものはないか教えていただきたい。また、行政の簡単な判断も教えていただき、それをたたき台にしたい。

【滝澤センター長】

今までの経緯としては、地域協議会において委員の皆さんから班に分かれていただき地域の課題や意見を出してもらった。その後、全体協議をし、ほかの意見もあるのではないかということで町内会長と意見交換会を行った。そして、現在において町内会長の意見を参考にしながらテーマを絞らずに意見交換を行っている状態である。

今後の進め方としては、出された意見を絞りながら協議を進めていくこととなったが、資料の右側の表は、地域協議会委員の皆さんが協議の参考とするために町内会長の意見を聞いただけなので、今後は委員同士で十分協議して進めていただきたい。

今後、議論していく中で必要な部分については、担当課から説明していただいたり、いろいろな情報を収集しながら事務局のほうで準備したいと思う。

【青山恭造会長】

・課題について、資料№.２の右表の順に協議していくことで同意を得る

では、１つ目「一部の町内会を除き、地域全体として高齢化や少子化が進んでいる」についてはどうか

【泉委員】

港町で１０年後、３０年後の人口予測のデータがある。それによると人口はどんどん減っていく。しかし、毎年１組の夫婦が入ってくると人口減少が収まる。その上に子供が１人いる夫婦が毎年１組入ってくると何年か後には人口が増える。今まで、ただ人口が減ると言っていたのが、逆に人口が増えるというケースも出てくる。そうなると町内のなかで１世帯増やす方法を考えれば良いということになる。

【青山恭造会長】

少子化問題で、他町村では高校生まで医療費を無料にしたり、３人以上子どもがいる世帯には助成金を増やしたりするとか、そういう話を出してもらえれば良いのではないか。

【磯田委員】

何の裏付けもないアイデアレベルの話を地域協議会の案として出すのは違うのではな

いか。具体的な対策は他町村でも行っていると思うが、この場で様々なアイデアを出すのであれば、もっと多くの意見を求めたほうが良いのではないか。

【泉委員】

このアイデアは博士号を持つ専門の人に出してもらったものであり、きちんと分析をしている。その点は御承知おきしていただきたい。

このアイデアを押し付ける気はないが「人口が減っていってしまう」だけで済ますことはできない問題だと思っている。

【町屋委員】

磯田委員の言われるのは、インセンティブの事例としてのアイデアだと思う。

確かに泉委員が言うように１年で１組増えれば人口減少が止まるという意見もあり、そういう議論をしていくのは無駄ではないと思うが、議論をするのであれば、もっと意見を広く聴くべきだという意見も分かる。ただ、再度町内会長から意見を聴く場を設けると地域協議会で意見を出すと成されるものだと思われてしまう。そうではなく、他町村の事例等を協議会の場で話し合い、それが突き進むべき価値があるものなのか、インセンティブなくできるものなのか。頼らざるを得ないものがあるのであれば、本腰を入れて次に向かえば良いと思うが、まだそこまで辿り着けていない。

【田村委員】

アイデアを地域協議会で議論するのは構わないと思っている。

【青山恭造会長】

高齢化を止めるのは難しい。しかし、地域協議会でアイデアをどんどん出してもらって、それを判断するのが行政だと思う。

【田村委員】

なおえつ保育園について、地域協議会での意見があって実現した部分もある。

【青山恭造会長】

他に意見はないか。

【田中委員】

ここ数年、地域協議会委員をやっているが、「地域協議会とは何か」、「地域協議会は何をしているのか」分からないことが多々ある。地域協議会は直江津を元気にするために話し合いをし、まちづくり構想では班に分かれて話し合い、町内会長の意見をいただいて、それをさらに良くするために話し合いをしてきたのだと思うが、どのような方向に

向かっているのか、地域協議会委員の役割が何なのか。難しくて分からなくなってきている。住民に「地域協議会は何をしているのか」と聞かれても答えられない。どなたか分かりやすく教えていただけないか。

【青山恭造会長】

直江津のまちづくりの課題について、みんなで話し合うという場だが、一つひとつが市民のためになれば良いと思う。その中から出てきたのが、高齢化や少子化についてみんな悩んでいるので、ここで議論しようということだが、うまいアイデアがあったら意見を出していただきたい。

【中澤委員】

何かに対して結論を求めるということであれば簡単である。例えば「空き家条例を作ってもらうにはどうすれば良いか」という要望を地域協議会として出すとか、そういう結論付けをするために話をするというやり方であれば分かりやすく簡単である。しかし、その状態になるまでには、数々の問題を裏に抱えているので、今、その下準備として土壌つくりが必要である。

【今川委員】

少子高齢化に関しては、日本全国の問題であり、地域協議会で解決できる問題ではないと思っている。

【青山恭造会長】

少子化のためにはどうしたら良いか。例えば、「母親の子育てを助けるアイデアはないか」、「子どもを産みやすくするためのアイデアはないか」といったような話で良いと思う。日本全国そうだと言ってしまうと、そこで話が終わってしまう。

【町屋委員】

高齢化は止められないが、高齢化率を下げることはできると思っている。それは、高齢者以外の人口を増やすことである。では、人口や子どもを増やすためにはどうしたら良いかという話になる。

田中委員がおっしゃられた地域協議会委員の役割については、住民の方々に聞かれたら「市長の諮問機関」であるということが第一義である。それ以外には、地域活動支援事業の採択の権限を与えられている。今回まちづくり構想を話し合うことにおいて、空き家条例を強化することや子育てに対して強化できる部分について地域協議会で良いアイデアが出れば、そのアイデアを発信することができる。地域協議会で議論することは

絵空事にはならないが、そこに至るためには、議会や法律的なものも含めて詰めていかなければならない。先は長いが、やろうと思えばできるので、やりがいはあると思う。

【増田副会長】

地域協議会は、地域の課題を地域の皆さんと共有して、行政との橋渡しをする、ということが役割である。地域協議会委員がいないと行政から話が来るだけで、地域の住民の意見は市議会議員から吸い上げてもらえば良いのかもしれないが、市議会議員がいない地域もある。

そして、少子化対策や高齢化の認知症予防に対して、上越市は立派な計画がある。しかし、「民生委員のなり手がいなくて苦慮している」ということは何故なのかということを行政は分析していない。民生委員の制度について問題があるということを我々が意見することが、まさに地域協議会の役目である。

「町内会の役員の担い手がいない」については、担い手がいなのではなく、やり方に問題があるから皆さんが遠ざかっているというところにも目を向けなければならない。町内会の運営の仕方にも問題がある。そこにメスを入れていかないと、これからの社会を守っていくことができない。

【泉委員】

今ほど、田中委員の意見に対して、ふと気付いたが、私たちは何をしたいのかという道筋が見えていないから、そう思ってしまったのだろうと思っている。我々は、そこを真摯に受け止めたほうが良い。方向性が定まっていないために物が見えていないということだと思う。非常に反省させられた。

【青山恭造会長】

では、直江津まちづくり構想については今後も審議していきたいと思う。

進め方については、丸山委員がおっしゃったとおり、上から順番に進めていくということでよろしいか。

（異議なし）

では、そのようにお願いする。

次に「その他」について、事務局へ説明を求める。

【滝澤センター長】

「その他」に入る前に、先ほどの田中委員の意見について、事務局から補足させていただく。

地域協議会について、地域の皆さん自らが地域の課題について話し合っていただくということが大きな役割となっている。今は課題の洗い出しの部分なので、いろいろな意見が出ており悩む部分もあると思うが、課題がはっきりしてきた時点で詳しく話し合っていただいて、どのように進めていけば良いのかという話が詰まってくれば見えてくるものがあると思うので、委員の皆さんからの活発な意見交換をお願いしたい。

【小池係長】

・次回協議会：８月２０日（火）午後６時から

【増田副会長】

地域活動支援事業で提案された「上越オレンジサポーター」の公開講座が７月６日（土）に行われた。当日、行かれた委員がいるのでどのような様子だったか参考に聞かせていただきたい。

【磯田委員】

福祉関係に携わっている人たちが大勢来ており、オレンジサポーターのＴシャツを着ている人たちがかなり多かった。一般の人で話を聞きに来た人は少なかったように思う。

パネリストが２人、司会が１人いらっしゃったが、昨年度開催した公開講座の話から始まり、その人の体験談を話すのだが、全然インフォメーションもなく、その方のバックグランドが分からないので、途中まで話の内容が分からなかった。講座を聴きに来ている人たちが福祉関係だから分かるという感じの話だった。最後のほうで「直江津区で人にやさしい町にするためにはどうしたら良いか」というテーマについて意見交換をしたという感じだった。それを深掘りされていくような場ではなかった。「みんながやさしい気持ちで向かっていきましょう」みたいな結論だった。私としては、フラストレーションが溜まってしまった。

地域全体として、「認知症にやさしい町として、具体的にどう取り組んでいくか」とか、「地域で認知症の人を支えるための支援」とか、そういった議論には至らなかった会議であった。

【泉委員】

「直江津区にはこんな課題がある」というような話もなかったのか。

【磯田委員】

そのような話はなかった。ただ、地域包括支援センターや西城病院の人が来て、取組の説明はあったが、それを直江津区ではどうなのかといった議論にもならない。情報を

提示したわけでもない。

【増田副会長】

タイムスの記事によると、「ＲＵＮ伴の説明がありました」と記載されていたが、それはいかがなものかと思った。

【町屋委員】

パンフレットを見ると、直江津エリア説明会というのは、結局、スタッフの勉強会の部分が強いのではないか。提案団体で行った公開講座は対外的に発信してくれることが地域に貢献する部分であって、自分達が勉強するためだけならスタッフ勉強会でしかない。そこに紛れ込んでしまったような違和感がとてもある。上越オレンジサポーターが行った公開講座自体は対象を広くして市民に知ってもらうような事業なのではないか。

【磯田委員】

公開講座となっているので聴きに来ていた知り合いの人がいたが、「ずっとこんな感じか」と私に尋ねるので、「さっきからこうだ」と伝えると、途中で帰っていかれた。

【増田副会長】

昨年、提案内容と全然違う事をやっているという話があったので、今年はどうかと不安だったが、あまりにもそれが甚だしいと何か手を打たないといけないと思う。

【青山恭造会長】

・会議の閉会を宣言

９　問合せ先

自治・市民環境部　自治・地域振興課　北部まちづくりセンター

TEL：025-531-1337

E-mail：hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

１０　その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。